愛媛県立宇和鳥南中等教育学校(前期課程用)

啓林館

教科	数学	学年	1	年	時間数	140 時間
----	----	----	---	---	-----	--------

出版社名

教科書名

未来へひろがる数学1 未来へひろがる数学2

指 導 計 画 評価の観点 学期 月 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 知 思 主 単 元 内容 1章 正の数・負の数 1節 正の数・負の数 0 0 0 授業の概要 1 0より小さい数 負の数の意味を理解し、正の数・負の数の四 0 0 0 2 正の数・負の数で量を表すこと 3 絶対値と数の大小 則計算を学びます RRILL 非を子いるが、 文字を使って、数量や数量の間の関係を一般 的に表し、その計算方法を学びます。 方程式とその解について理解し、方程式の解 1 正の数・負の数の加法,減法 0 0 0 2節 正の数・負の数の計算 0 0 2 正の数・負の数の乗法、除法 3 いろいろな計算 Ο 1 正の数・負の数の利用 3節 正の数・負の数の利用 4数の世界のひろがり 0 0 0 ェをチひょす。 図形の性質や、基本的な図形の作図方法につ いて学びます。 資料の整理の仕方について学びます。 5 0 0 中間考査(5/16~5/17) 0 0 2章 文字の式 1節 文字を使った式 1 数量で文字を表すこと 2 文字式の表し方 0 0 0 0 1 文字式の加法, 減法 0 0 0 2節 文字式の計算 期 2 文字式と数の乗法, 除法 0 0 0 0 3 関係を表す式 0 0 学習の到達目標 ·正の数・負の数の四則計算ができる。 ·文字の式の意味について理解し、文字式の計 0 0 期末考査3年(6/28~7/4) 期末考査1・2年(6/29~7/4) ステンスの記録(こう) (12 所) (ステスの) (15 所) (15 m) (1 0 0 0 3章 方程式 1節 方程式 1 方程式とその解 2 方程式の解き方 0 0 ・基本的な図形の性質を理解する。 ・資料を整理し、活用する力を身に付ける。 0 0 0 2 方程式の解き方 3 比と比例式 夏季 夏季休業日(7/21~8/24) 2節 方程式の利用 1 方程式の利用 2 比例式の利用 0 0 0 0 4章 変化と対応 1節 関数 0 0 1 比例の式 2 座標 0 0 0 2節 比例 3 比例のグラフ 0 0 0 評価の観点 0 1 反比例の式 2 反比例のグラフ 0 0 知識 • 技能 3節 反比例 数学的活動を通して、数量や図形などについて の基礎的な概念や原理・法則などを理解するとと もに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、 0 0 0 4節 比例・反比例の利用 1 比例・反比例の利用 中間考査(10/5~10/6) 0 0 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 5章 平面図形 1節 直線と図形 0 0 0 1 直線と図形 10 0 0 0 2節 移動と作図 1 図形の移動 学 0 0 思考 ・ 判断 ・ 表現 数学的な見方・考え方を働かせ、数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し、統合的・発展的に考察する力、数学的表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 0 0 0 3 図形の移動と基本の作図の利用 期 0 3節 円とおうぎ形 1 円とおうぎ形の性質 0 0 0 0 0 2 円とおうぎ形の計量 0 O 2 円とおうぎ形の計量 0 0 0 主体的に学習に取り組む態度 期末考査3年(11/29~12/5) 期末考査1・2年(11/30~12/5) 数学的活動を通して、その楽しさやよさを実感 して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそう とする態度、問題解決の過程を振り返って評価・ 0 0 12 6章 空間図形 1節 立体と空間図形 0 0 1 いろいろな立体 0 改善しようとする態度を養っている。 2 空間内の平面と直線 3 立体の構成 0 0 0 冬季休業日(12/21~1/8) 季 2節 立体の体積と表面積 1 立体の体積 0 0 0 評価方法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レボートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価します。 0 0 0 7章 データの活用 1節 ヒストグラムと相対度数 1 データを活用して、問題を解決しよう 0 0 0 0 0 0 2節 データにもとづく確率 2 整理されたデータから読みとろう 1 相対度数と確率 0 0 0 1章 式の計算 1節 式の計算 1 式の加法・減法 した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。 0 0 O 2 いろいろな多項式の計算 2 0 0 学年末考査3年(2/22~2/29) 学年末考査1·2年(2/26~2/29) 0 0 備 考 0 0 3 単項式の乗法,除法 0 3 2節 文字式の利用 1 文字式の利用 0 0 0 0 0 0 1 文字式の利用

愛媛県立宇和鳥南中等教育学校(前期課程用)

啓林館

教科	数学	学年	2	年	時間数	105	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

出版社名

教科書名

未来へひろがる数学2 未来へひろがる数学3

指 導 計 画 評価の観点 学期 月 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 知 思 主 単 元 内容 2章 連立方程式 1節 連立方程式 0 0 授業の概要 1 連立方程式とその解 0 元一次方程式を用いて、文章題の解き方を 0 0 0 2 連立方程式の解き方 学習します。 ともなって変わる2つの数量の関係について調べま 1 連立方程式の利用 0 0 0 2節 連立方程式の利用 す。 図形の性質の調べ方や、あることがらが正しいこと を示す方法を学びます。 図形についてのいろいろな性質を見つけて、それを 証明していきます。 ものごとの起こりやすさについて学びます。 データを活用して問題を解決する方法を学びます。 1 連立方程式の利用 0 0 0 3章 一次関数 1節 一次関数とグラフ 1 一次関数 2 一次関数の値の変化 0 0 0 5 0 0 中間考査(5/16~5/17) 0 0 3 一次関数のグラフ 4 一次関数の式を求めること 0 0 0 0 2節 一次関数と方程式 1 方程式とグラフ 0 0 0 2 連立方程式とグラフ 期 6 3節 一次関数の利用 1 一次関数の利用 0 0 0 0 0 4章 図形の調べ方 1節 平行と合同 1 角と平行線 2 多角形の角 0 学習の到達目標 ・連立二元一次方程式について見いだし、それを用し て考察することができる。 0 0 0 期末考査3年(6/28~7/4) 期末考査1・2年(6/29~7/4) 事象の中から一次関数を見いだし、用いることがで 0 0 ・図形の性質を調べる上で基礎となる見方や基本的 2節 証明 0 0 1 証明とそのしくみ 0 性質を、観察、操作や実験などの活動を通して明らかにし、論証の意義と推論の進め方を理解することがで 2 証明の進め方 0 0 0 でる。 ・権率の意味を理解し、確率を求めることができる。 ・箱ひげ図について理解するとともに、データを正しく 読み取り、それを使って問題を解決することができ 夏季 夏季休業日(7/21~8/24) る。 ・数の概念の理解をいっそう深めるとともに、数を用いてものごとを広く、深く考察、処理することができる。 5章 図形の性質と証明 1節 三角形 1 二等辺三角形 0 0 0 0 0 0 2 直角三角形の合同 1 平行四辺形の性質 0 0 0 2節 四角形 9 2 平行四辺形になるための条件 0 0 0 評価の観点 0 0 3 いろいろな四角形 0 知識 • 技能 数学的活動を通して、数量や図形などについての 基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に 0 0 0 4 平行線と面積 5 四角形の性質の利用 中間考査(10/5~10/6) 0 0 0 表現・処理したりする技能を身に付けている。 0 0 6章 場合の数と確率 0 1 確率の求め方 10 0 1節 場合の数と確率 2 いろいろな確率 0 0 学 3 確率の利用 0 0 0 思考 ・ 判断 ・ 表現 数学的な見方・考え方を働かせ、数学を活用して事 象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を 見出し、統合的・発展的に考察する力、数学的な表現 を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身ほ 0 0 0 3 確率の利用 期 0 0 0 7章 箱ひげ図とデータの活用 1 箱ひげ図 2 データを活用して、問題解決をしよう 0 0 0 付けている。 11 1節 箱ひげ図 0 0 0 2 データを活用して、問題解決をしよう 0 0 主体的に学習に取り組む態度 期末考査3年(11/29~12/5) 期末考査1・2年(11/30~12/5) 数学的活動を通して、その楽しさやよさを実感して 粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態 度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようと する態度を養っている。 0 0 0 0 12 1章 式の展開と因数分解 1 式の乗法,除法 0 1節 式の展開と因数分解 0 0 0 2 乗法の公式 冬季休業日(12/21~1/8) 季 3 因数分解 0 0 0 評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「ルテスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均と 0 0 0 2節 式の計算の利用 1 式の計算の利用 0 0 0 1 式の計算の利用 0 0 2章 平方根 1節 平方根 1 平方根 0 = し、5段階法でも評定します。 0 0 0 2 平方根の値 0 0 0 3 有理数と無理数 4 真の値と近似値 学 2 0 0 学年末考査3年(2/22~2/29) 学年末考査1·2年(2/26~2/29) 0 0 考 0 2節 根号をふくむ式の計算 0 1 根号をふくむ式の乗法,除法 0 3 2 根号をふくむ式の計算 0 0 0 2 根号をふくむ式の計算 0 0 0

愛媛県立宇和鳥南中等教育学校(前期課程用)

数研出版

啓林館

教科	数学	学年	3	年	時間数	140 時間	
----	----	----	---	---	-----	--------	--

出版社名

教科書名

未来へひろがる数学3 新編 数学 I

指 導 計 画 評価の観点 学期 月 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 知 思 主 単 元 内容 2章 平方根 1節 平方根 1 平方根 2 平方根の値 3 有理数と無理数 0 \circ 0 授業の概要 平方根の性質を学び、計算方法を学習します。 二次方程式の解の求め方、文章問題の解き方を学 2節 根号をふくむ式の計算 0 0 1 根号をふくむ式の乗法,除法 習します。 2 根号をふくむ式の計算 0 0 0 當します。 具体的な事象の中から、表・グラフ・式を使って、関 数y=ax²について理解します。 三角形の相似条件を学び、相似の証明問題や線分 の長さを相似比や三平方の定理を利用して求めてい 1 平方根の利用 0 0 0 3節 平方根の利用 3章 二次方程式 1節 二次方程式 1 二次方程式とその解き方 2 二次方程式の解の公式 0 0 0 の長さを相似氏でニーアルル・ユーバル・コードをます。 「数学 I 」は式の見方や展開、因数分解の仕方を 学習し、連立不等式や絶対値配号を含む方程式、不 等式について学習します。また、集合についての基本 的な事項を理解し、命題などの考察を通して、論理的 な思考力を伸ばします。また、2次関数の平方完成の 方法やグラフのかき方を学びます。 5 0 0 中間考査(5/16~5/17) 0 3 二次方程式と因数分解 0 0 0 0 0 2節 二次方程式の利用 1 二次方程式の利用 4章 関数y=ax^2 1節 関数とグラフ 1 関数y=ax^2 0 0 0 期 6 0 0 0 2 関数y=ax²のグラフ 0 0 2節 関数y=ax^2の値の変化 1 関数y=ax^2の値の増減と変域 2 関数y=ax^2の変化の割合 0 学習の到達目標 平方根の計算を用い、より広い範囲での計算をする とができる。 二次方程式を用いて実際の問題を解決したり、考察 0 0 期末考查3年(6/28~7/4) 期末考査1・2年(6/29~7/4) 0 0 ・二次の住私で用いて美味の问題で解決したり、名宗したりすることができる。 ・2次関数について、表・式・グラフ相互に関連付けることができる。また、2次関数を用いて具体的な事象をとらえ、説明できる。 ・三角形や円などの基本的な図形の性質について理解を深め、図形の性質を論理的に考察し処理することができる。 3節 いろいろな事象と関数 0 0 1 y=ax^2の利用 2 いろいろな関数 0 0 1 相似な図形 2 三角形の相似条件 0 0 5章 図形と相似 1節 図形と相似 解を深め、図がの仕員を調理的し考察し処理するととができる。 とができる。 ・式の見方を豊かにし処理することで、不等式などの 理解を深め、それらを活用できる。 ・集合と論理について理解し、論理的な思考を伸ばす とともに、それらを命題などの考察に生かすことがで 夏季 夏季休業日(7/21~8/24) 8 3 三角形の相似条件と証明 0 0 0 0 0 0 2節 平行線と線分の比 1 平行線と線分の比 0 0 0 2 中点連結定理 3節 相似な図形の条件 1 相似な図形の面積 2 相似な立体の表面積・体積 0 0 0 評価の観点 9 0 0 0 知識 • 技能 数学的活動を通して、数量や図形などについての 基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に 0 6章 円の性質 1節 円周角と中心角 0 0 1 円周角と中心角 2 円周角の定理の逆 0 0 中間考査(10/5~10/6) 表現・処理したりする技能を身に付けている。 0 0 0 2節 円の性質の利用 1 円の性質の利用 10 0 0 0 7章 三平方の定理 1節 直角三角形の3辺の関係 1 三平方の定理 学 2節 三平方の定理の利用 1 三平方の定理の利用 0 0 思考・判断・表現 数学的な見方・考え方を働かせ、数学を活用して事 象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を 見出し、統合的・発展的に考察する力、数学的な表現 を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身ほ 0 0 0 8章 標本調査とデータの活用 1 標本調査の方法 2 母集団と標本の関係 期 0 0 1節 標本調査 3 データを活用して、問題を解決しよう 0 0 0 0 付けている。 数学 I 第1章 数と式 第1節 式の計算 1 多項式の加法と減法 2 多項式の乗法 0 0 O 3 因数分解 0 0 主体的に学習に取り組む態度 期末考査3年(11/29~12/5) 期末考査1・2年(11/30~12/5) 数学的活動を通して、その楽しさやよさを実感して 粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態 度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようと する態度を養っている。 0 0 0 0 12 第2節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算 0 0 0 0 第3節 1次不等式 6 不等式の性質 冬季休業日(12/21~1/8) 季 7 1次不等式 0 0 0 評価方法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「ルテスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均と 8 絶対値を含む方程式・不等式 章末問題 0 0 0 第2章 集合と命題 1 集合 2 命題と条件 0 0 0 0 0 0 3 命題とその逆・対偶・裏 = 0 0 0 し、5段階法でも評定します。 4 命題と証明 0 0 O 章末問題 学 0 0 学年末考査3年(2/22~2/29) 学年末考査1·2年(2/26~2/29) 0 0 考 0 1 関数とグラフ 2 2次関数とグラフ 0 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 0 3 第2節 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 0 0 0 0 0 0 4 2次関数の決定

愛媛県立宇和島南中等教育学校(4・5年生用)

教科書名 新編 数学 I 新編 数学Ⅱ 新編 数学A 出版社名 数研出版

学			指 導 計 画	評値	西の観	見点	授業の振声・党羽の到法日博・部店の知上等
期	月	単 元	内 容	知	思	主	授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		数学 I 第3章 2次関数	1 関数とグラフ	0		0	授 業 の 概 要
	4	第1節 2次関数とグラフ	2 2次関数のグラフ	0		0	「数学 I 」は、集合についての基本的な事項を 理解し、命題などの考察を通して、論理的な思考
		第2節 2次関数の値の変化	3 2次関数の最大・最小		0	0	力を伸ばします。また、前期課程で学んだ数学を
ŀ		第3節 2次方程式と2次不等式	4 2次関数の決定		0	0	踏まえて、更に発展させ、2次関数、図形と計量 という高校数学の基礎・基本の分野に加えて、
		中間考査5年(5/9~5/12)		0		0	データの分析という分野を学習します。前期課程 の数学と比べると内容が深くなっていますので、
	5	中間考査4年(5/16~5/19)		0	0	0	課題の量も多くなります。 「数学A」は、具体的な事象を数学的に処理す
_			— 6 2次関数のグラフと×軸の位置関係		0	0	るための基礎を身に付ける科目です。整数の性
学			7 2次不等式		0	0	質や場合の数と確率の分野を学習します。 「数学Ⅱ」は、「数学Ⅰ」、「数学A」より進んだ「
		数学A 第1章 場合の数と確率	1 集合の要素の個数	0		0	容として、方程式・式と証明を学習します。 教科書レベルでは入試に対応できませんから。
期	6		2 場合の数	0		0	問題集「クリアー数学(数研出版)」を傍用しなが ら、模試問題なども解いていきます。
		第1節 場合の数	3 順列 4 組合せ	0		0	学習の到達目標
				0	0	0	・2次関数のグラフを利用して、最大値・最小値
		期末考査(6/28~7/4)		0	0	0	の問題、2次不等式の問題などを解くことができる。
		第2節 確率		0			・いろいろな図形の計量に、正弦定理、余弦定理、面積公式を活用できる。
	7	MICH, NET	7 独立な試行と確率	0			・ヒストグラムや箱ひげ図を利用して、データの
			/ 独立体部门C唯中	0		0	分布を表現できる。 ・実生活における具体的な例を通して場合の数
夏季		夏季休業日(7/21~8/24)					や確率を求めることができる。 ・高次方程式を解くことができる。
	8		0. 及从丛七7市市		<u> </u>	$\overline{}$	
			8 条件付き確率		0	0	
Ī			9 期待値		0	0	
		数学 I 第4章 図形と計量	1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張	0		0	
	9	第1節 三角比	4 正弦定理	0		0	評価の観点
		第2節 三角形への応用	5 余弦定理	0		0	知識・技能
ŀ			6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 		0	0	数学における基本的な概念や原理・法則を体 系的に理解している。また、事象を数学化したり
		中間考査(10/3~10/6)		0	0	0	数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したり する技能を身に付けている。
=	10		8 空間図形への応用		0	0	
学		数学 I 第5章 データの分析	1 データの整理 2 データの代表値	0		0	
<i>'</i>			3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差	0		0	思考 ・ 判断 ・ 表現
期			5 2つの量の間の関係 6 仮説検定の考え方		0	0	数学を活用して事象を論理的に考察する力、 象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・
		数学A 第2章 図形の性質	1 三角形の辺の比 2 三角形の外心・内心・重心	0	0		発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事 象を完結・明瞭・的確に表現する力を身に付けて
	11	第1節 平面図形	3 チェパの定理・メネラウスの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線	0	0		ina.
		第2節 空間図形	6 2つの円 7 作図 8 直線と平面 9 空間図形と多面体	0		0	
-				0	0	0	主体的に学習に取り組む態度
		期末考査(11/29~12/5)		0	0	0	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しよう としたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判
	12	数学A 第3章 数学と人間の活動		0		0	断したりしている。また、問題解決の過程を振り
			5 ユークリッドの互除法 6 1次不定方程式		0	0	返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたり している。
冬季		冬季休業日(12/21~1/8)					
_					0	0	評価方法
	1	数学Ⅱ 第1章 式と証明	1 3次式の展開と因数分解 2 二項定理	0		0	学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「きたなどに常習に取り組ませまます。
		第1節 式と計算	3 多項式の割り算 4 分数式とその計算	0		0	現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、
ļ			5 恒等式	0			「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価し
Ξ		第2節 等式・不等式の証明	6 等式の証明		0		ます。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定
学	2		7 不等式の証明		0	0	します。
•	-		 	0	0	0	
期		学年末考査(2/22~2/29)		0	0	0	
		数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式		0	٧	0	בי אוע
	3			0			
		第1節 複素数と2次方程式の解	3 解と係数の関係	9	<u></u>	0	
		第2節 高次方程式	4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式		0	0	

令和5年度 シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(4・5年生用)

教科	数学	科目	数学Ⅱ 数学B	学年	5 年	類型	文科系	単位数	3 2 単位	
----	----	----	------------	----	-----	----	-----	-----	--------------	--

教科書名 新編 数学Ⅱ 新編 数学B 出版社名 数研出版

+n I /	в,			H11	西の観	兄믔	授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
明	月	単 元	内 容	知	思	主	
		第3章 図形と方程式	1 直線上の点 2 平面上の点	0	0	0	授業の概要
	4	第1節 点と直線	3 直線の方程式 4 2直線の関係	0	0	0	「数学Ⅱ」は、式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角・指数・対数関数、微分と積分に
		第2節 円	5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円	0	0	0	ついて、「数学 I 」で学んだ基礎・基本をもとに、 より深い内容を学習していきます。
		第3節 軌跡と領域	8 軌跡と方程式	0	0	0	「数学B」は、「数学 I 」、「数学 II 」より進んだ内 容として、数列と統計的な推測について学習して
	L	中間考査5年(5/9~5/12)		0	0	0	いきます。
_ '	5	中間考査4年(5/16~5/19)	9 不等式の表す領域	0	0	0	教科書レベルでは入試に対応できませんから、 問題集「クリアー数学Ⅱ+B(数研出版)」を活用し
		第4章 三角関数	1 角の拡張 2 三角関数	0	0	0	つつ、模試問題なども解いていきます。
学 —		第1節 三角関数	3 三角関数のグラフ 4 三角関数の性質	0	0	0	
			5 三角関数を含む方程式、不等式	0	0	0	
朝	6	第2節 加法定理	6 加法定理	0	0	0	
			7 加法定理の応用	0	0	0	学 習 の 到 達 目 標
\vdash	_			0	0	0	・基本的な図形の性質を理解し、問題解決に活
		期末考査(6/28~7/4)		0	0	0	用できる。 ・様々な関数の特徴をグラフで描いて捉えること
	7	第5章 指数関数と対数関数	1 指数の拡張	0	0	0	ができる。 ・微分・積分の考え方により、関数の値の変化や
		第1節 指数関数	2 指数関数	0	0	0	面積を求めることができる。 ・数列の規則性を把握できる。
夏	ı						・数学的帰納法を用いて証明することができる。 ・統計的な推測の手法を理解し、推定や仮説検
季	\exists	夏季休業日(7/21~8/24)					定に応用できる。
┥,	8	第2節 対数関数	3 対数とその性質 4 対数関数	0	0	0	
			5 常用対数	0	0	0	
		第6章 微分法と積分法	1 微分係数 2 導関数とその計算	0	0	0	
1	9	第1節 微分係数と導関数	3 接線の方程式	0	0	0	評価の観点
		第2節 関数の値の変化	4 関数の増減と極大・極小	0	0	0	知識・技能
		21W- 1212/2/1877/2/10	5 関数の増減・グラフの応用	0	0	0	双職 · 及能 数学における基本的な概念や原理・法則を体
	7	中間考査(10/3~10/6)	- Navyana / // Whili	0	0		系的に理解している。また、事象を数学化したり、 数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したり
_	-	第3節 積分法		0	0	0	する技能を身に付けている。
	10	カン却 1俣刀/ム					
学			7 定積分	0	0	0	H + 111MC + TH
₊₀		粉學D 笛1音 粉刷	8 定積分と面積 2 第美粉列	0	0	0	思考 ・ 判断 ・ 表現 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事
朝一		数学B 第1章 数列	1 数列と一般項 2 等差数列 2 等差数列 2 等差数列 2 第 2 第 3 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	0	0	0	象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事
١.		第1節 等差数列と等比数列	3 等差数列の和	0	0	0	象を完結・明瞭・的確に表現する力を身に付けて
- ['	11	tota - tota - 1 - 2 - 2 - 2 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3	4 等比数列 5 等比数列の和	0	0		いる。
	-	第2節 いろいろな数列	6 和の記号 Σ	0	0	0	2 / 46 - 26 TR - TS / 160 b / 45 ±
		期末考査(11/29~12/5)		0	0	0	主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しよう
				0	0	0	としたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判
	12		7 階差数列	0	0	ļ	断したりしている。また、問題解決の過程を振り 返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたり
冬		有手比带口(40/04 - 1/2)	8 いろいろな数列の和	0	0	0	している。
冬 季	7	冬季休業日(12/21~1/8)	o Mr. III.				
		第3節 漸化式と数学的帰納法	9 漸化式	0	0	0	評価方法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表
	1		10 数学的帰納法	0	0	0	現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観
		第2章 統計的な推測	1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値と分散	0	0		点で評価します。具体的には、おもに「出席」、 「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テス
₌⊨		第1節 確率分布	3 確率変数の和と積	0	0	·	ト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価
			4 二項分布 5 正規分布	0	0	0	した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
学	2	第2節 統計的な推測	6 母集団と標本 7 標本平均の分布	0	0	0	
朝		学年末考査(2/22~2/29)		0	0	0	
<i>"</i>			_	0	0	0	備考
			8 推定	0	0	0	
	3		9 仮説検定	0	0	0	
			II .	0	0	0	

愛媛県立宇和鳥南中等教育学校(4・5年生用)

数研出版

教科	数学	科目	数学 Ⅱ 数学B 数学C	学年	5 年	類型	理科系	単位数	3 2 単位 1	ī
----	----	----	--------------------	----	-----	----	-----	-----	----------------	---

出版社名

教科書名

新編 数学Ⅱ

新編 数学B

新編 数学C

指 導 計 画 評価の観点 学期 月 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 知 思 主 単 元 内 容 第3章 図形と方程式 0 0 0 1 直線上の点 2 平面上の点 授業の概要 「数学Ⅱ」は、式と証明、複素数と方程式、図形 第1節 点と直線 第2節 円 4 2直線の関係 5 円の方程式 0 0 0 3 直線の方程式 と方程式、三角・指数・対数関数、微分と積分に ついて、「数学 I 」で学んだ基礎・基本をもとに、 より深い内容を学習していきます。 と方程式. 0 0 0 6 円と直線 7 2つの円 第2節 円 0 「数学B」は、「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」より進んだ内容として、数列と統計的な推測について学習して 第3節 軌跡と領域 8 軌跡と方程式 0 0 中間考査5年(5/9~5/12) 0 0 0 いきます いきます。 「数学C」は、ベクトルの概念を導入し、図形の 性質を考察していきます。 教科書レベルでは入試に対応できませんから、 問題集「クリアー数学 II + B(数研出版)」を活用し つつ、模試問題なども解いていきます。 5 0 0 0 中間考査4年(5/16~5/19) 9 不等式の表す領域 0 0 0 第4章 三角関数 1 角の拡張 2 三角関数 3 三角関数のグラフ 0 0 0 第1節 三角関数 4 三角関数の性質 5 三角関数を含む方程式、不等式 0 0 0 第2節 加法定理 6 加法定理 期 0 0 0 7 加法定理の応用 0 0 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 1 指数の拡張 2 指数関数 0 学習の到達目標 ・基本的な図形の性質を理解し、問題解決に活 0 0 0 期末考査(6/28~7/4) ・様々な関数の特徴をグラフで描いて捉えること 0 0 0 ができる。
・微分・積分の考え方により、関数の値の変化や 0 0 0 第2節 対数関数 3 対数とその性質 4 対数関数 面積を求めることができる。 ・数列の規則性を把握できる。 0 0 0 5 常用対数 数学的帰納法を用いて証明することができる。 統計的な推測の手法を理解し、推定や仮説検 夏季 夏季休業日(7/21~8/24) 定に応用できる。 ・ベクトルの演算ができる。 ・ベクトルを用いて、図形の性質を考察すること 第6章 微分法と積分法 1 微分係数 2 導関数とその計算 0 0 0 ができる。 0 0 0 第1節 微分係数と導関数 3 接線の方程式 第2節 関数の値の変化 4 関数の増減と極大・極小 0 0 0 5 関数の増減・グラフの応用 0 9 第3節 積分法 0 0 評価の観点 6 不定積分 0 7 定積分 0 0 知識 · 技能 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したり 0 0 0 8 定積分と面積 0 0 0 中間考査(10/3~10/6) する技能を身に付けている。 数学B 第1章 数列 2 等差数列 3 等差数列の和 0 0 0 1 数列と一般項 10 0 第1節 等差数列と等比数列 4 等比数列 5 等比数列の和 0 0 学 第2節 いろいろな数列 6 和の記号Σ 7 階差数列 0 0 思考・判断・表現 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事 0 0 0 8 いろいろな数列の和 期 数子では四にく事家で調理的に考示するが、事 象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・ 発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事 象を完結・明瞭・的確に表現する力を身に付けて 0 0 0 第3節 漸化式と数学的帰納法 9 漸化式 0 0 0 11 10 数学的帰納法 0 0 第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値と分散 0 0 0 主体的に学習に取り組む態度 期末考査(11/29~12/5) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しよう 0 0 0 としたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたり 0 0 0 12 3 確率変数の和と精 4 二項分布 5 正規分布 6 母集団と標本 7 標本平均の分布 0 0 0 第2節 統計的な推測 冬季休業日(12/21~1/8) 季 8 推定 9 仮説検定 0 0 0 評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表 0 0 0 数学C 第1章 平面上のベクトル 1 ベクトル 2 ベクトルの演算 3 ベクトルの成分 子自の小次は、、対域、技能」、「恐ち・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む速度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レボートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価 第1節 ベクトルとその演算 4 ベクトルの内積 0 0 0 0 0 0 第2節 ベクトルと平面図形 5 位置ベクトル 6 ベクトルの図形への応用 = 5.7。5.7に、子牛の成績は、上記の観点から評価 した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定 します。 0 0 0 7 図形のベクトルによる表示 0 0 0 1 空間の点 2 空間のベクトル 3 ベクトルの成分 2 第2章 空間のベクトル 0 0 0 学年末考査(2/22~2/29) 0 0 0 備 考 0 0 0 4 ベクトルの内積 3 5 ベクトルの図形への応用 0 0 0 6 座標空間における図形 0 0 0

^{令和5年度} シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(6年生用)

教科	粉学	科目	数学研究 I 数学研究 Ⅱ	学年	6 年	類型	1 フローカル文件示	単位数	五	
----	----	----	------------------	----	-----	----	------------	-----	---	--

 教科書名
 自作教科書(数学研究 I・II)
 出版社名
 宇和島南中等教育学校

 学期
 指導計画
 評価の観点

 財産の概要・学習の到達目標・評価の観点等

学期	月		指 導 計 画		評価	価の勧	見点		授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
期	л	単 元	内 容	関	見	技	知		「「「「「「「」」」「「」」「「」」「「」」「「」」「「」」「「」」「「」」
		問題演習	1 ベクトル	0	0	0	0	ļ	授業の概要
	4		2 式と証明	0		0	0		数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学Bの範囲を系統的に学習します。大学入学共通テスト対策、国公
			3 複素数と方程式	0		0	0		立大学2次試験レベルの問題を解きます。精選された問題を通して、考える力、応用力を身に付け
İ			4 図形と方程式	0		0	0		れた问题を通じて、考える力、心用力を身にNT) ます。
			5 三角関数	0	0	0	0		
	5	中間考査(5/16~5/19)			0	0	0	†	
			6 指数·対数関数	0	·	0	0		
学			7 微分法•積分法	0	 	0	0		
			8 数列	0	0	0	0	 	
期	6	問題演習	1 数と式	0	·	0	0	 	
			2 2次関数	0	ļ	0	0	 	学習の到達目標
					0	0	0		・大学入学共通テスト、国公立大学2次試験レベ
		期末考査(6/28~7/4)			0	0	0	 -	ルの問題を解くことができる。
			 3 図形と計量	0	0	0	0	 -	
	7		4. 集合と論理 5 データの分析	0	0	0	0	 	
			4. 来自と調理 3 7 一 500 万旬					ļ	
夏季		夏季休業日(7/21~8/24)			ļ	ļ		ļ	
_	8		6. 担个小洲, 萨克			^	0	 -	
			6 場合の数・確率 7 図形の性質	0	0	0	0	ļ	
İ					0	ļ	 -	ļ	
			8 整数の性質	0	ļ <u>.</u>	0	0	 	
	9	総合問題演習	1 2次方程式の解の判別 2 2次方程式の解と係数の関係 3 高次方程式		0	0	0	ļ	評価の観点
			4 文字係数を含む不等式・絶対値を含む不等式		0	0	0	ļ	関心・意欲・態度
			5 最大最小・2次方程式の解の存在範囲 		0	0	0	ļ	数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学 の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的
		中間考査(10/3~10/6)			0	0	0	ļ	に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとし 「ている。
=	10		6 三角関数の方程式・不等式 7 指数関数		0	0	0	ļ	
学			8 三角比·三角関数 9 平面図形		0	0	0	ļ	数学的な見方や考え方
,			10 接線 11 極値		0	0	0	ļ	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程 しを振り返り多面的・発展的に考えたりすることな
期			12 最大最小 13 方程式の解の個数		0	0	0	ļ	どを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。
			14 定積分で表された関数 15 面積の計算		0	0	0		
	11		16 面積の等分 17 等差数列・等比数列		0	0	0		数学的な技能
			18 Σの計算・階差数列		0	0	0		事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の 方法などの技能を身に付けている。
ŀ		期末考査(11/29~12/5)			0	0	0		
		WJAN:可見 \ / 20 - (2/ U)		[0	0	0		
	12		19 いろいろな数列の和・群数列・漸化式	l	0	0	0		知 識 ・ 理 解
			20 重複組み合わせ・二項定理 21 反復試行の確率・条件付き確率	ĺ	0	0	0		数学における基本的な概念、原理・法則などを 体系的に理解し、知識を身に付けている。
冬季		冬季休業日(12/21~1/8)			Ĭ				The state of the s
			22 命題と論証・整数 23 平面ベクトル	l	0	0	0		
	1		24 空間ベクトル 25 ベクトル方程式	l	0	0	0	Ţ	評 価 方 法
			26 整数解をもつ方程式 27 素数	l	0	0	0	†	学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「数学的な 見方や考え方」、「数学的な技能」、「知識・理解」
			家庭学習	0	0	0	0	†	の4つの観点で評価します。具体的には、おもに
Ξ				0	0	0	0	 	「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、 「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により
学	2			0	0	0	0	 	・評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法で
				0	0	0	0	 	も評定します。
期				0	0	0	0	 	
				 	 	 	 -	 	-
	3			l	t	ļ	t	 	
					ł	ļ	 	 	
									1

愛媛県立宇和鳥南中等教育学校(6年生用)

教科	数学	科目	数学Ⅲ 数学研究Ⅱ	学年	6 年	類型	グローカル理科系	単位数	4 2 単位]
----	----	----	--------------	----	-----	----	----------	-----	--------------	---

教科書名 改訂版 新編 数学Ⅲ 自作教科書 数学研究Ⅱ 数研出版 宇和島南中等教育学校 出版社名 指 導 計 画 評価の観点 学期 月 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 塱 単 元 内容 見技知 第4章 極限 第1節 数列の極限 1 数列の極限 0 Ω 0 授業の概要 「教学皿」では、これまでの知識を総合しながら、関数、極限、微分法、微分法の応用、積分法、成分法の応用、複素数平面について学びます。教科書だけでは入試に対応できませんから、問題集「クリアー」を使用しながら、学力定着を図 0 0 0 2 無限等比数列 3 無限級数 第2節 関数の極限 4 関数の極限(1) 5 関数の極限(2) 0 0 0 6 三角関数と極限 7 関数の連続性 0 0 0 第5章 微分法 第1節 導関数 1 微分係数と導関数 2 導関数の計算 0 0 0 0 ッます。 「数学研究 II 」では、大学入学共通テストに対応するため、問題演習で実力を養います。 5 中間考査(5/16~5/19) 0 0 0 0 第2節 いろいろな関数の導関数 3 いろいろな関数の導関数 0 0 0 0 0 第2節 いろいろな関数の導関数 4 第n次導関数 5 曲線の方程式と導関数 第6章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 1 接線の方程式 2 平均値の定理 3 関数の値の変化 0 0 0 0 期 6 0 0 0 0 4 関数のグラフ 0 第2節 いろいろな応用 5 方程式、不等式への応用 6 速度と加速度 7 近似式 0 0 学習の到達目標 関数の積及び商の導関数、合成関数の導関数 0 0 0 期末考査(6/28~7/4) ついて理解し、求めることができる について理解し、水めることかできる。 ・三角関数、指数関数及び対数関数の導関数に ついて理解し、求めることができる。 ・導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程 式関数を用いて、いろいろな関数の値の増減、極 大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形 を描くことができる。 0 0 0 0 0 0 第7章 積分法とその応用 第1節 不定積分 1 不定積分とその基本性質 2 置換積分法と部分積分法 3 いろいろな関数の不定積分 第2節 定積分 4 定積分とその基本性質 5 置換積分法と部分積分法 0 0 0 を描くことができる。 ・積分法について理解を深めるとともに、その有 用性を認識し、面積、体積及び曲線の長さなどの 事象の考察に活用できる。 ・複素数平面について理解し、それらを事象の考 夏季 夏季休業日(7/21~8/24) 第2節 定積分 6 定積分のいろいろな問題 0 0 0 0 察に活用できる。 ・数学 I A II Bの学習内容について理解し、それらを事象の考察に活用できる。 0 0 0 0 第3節 積分法の応用 9 道のり 10 曲線の長さ 0 0 0 9 問題演習 1 複素数平面 0 0 0 評価の観点 0 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理 0 0 関心・意欲・態度 数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとし 0 0 0 4 複素数と図形 中間考査(10/3~10/6) 0 0 0 ている。 問題演習 1 2次方程式の解の判別 2 2次方程式の解と係数の関係 3 高次方程式 0 0 0 10 4 文字係数を含む不等式・絶対値を含む不等式 0 0 0 数学的な見方や考え方 学 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程 5 最大最小・2次方程式の解の存在範囲 0 0 0 を振り返り多面的・発展的に考えたりすることな 0 0 0 6 三角関数の方程式・不等式 7 指数関数 8 三角比・三角関数 期 0 0 9 平面図形 10 接線 11 極値 12 最大最小 0 0 0 0 数学的な技能 13 方程式の解の個数 14 定積分で表された関数 15 面積の計算 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の 16 面積の等分 17 等差数列・等比数列 18 Σの計算・階差数列 0 0 0 方法などの技能を身に付けている。 0 0 0 期末考査(11/29~12/5) 0 0 0 0 0 知識・理解 12 19 いろいろな数列の和・群数列・漸化式 20 重複組み合わせ・二項定理 0 数学における基本的な概念、原理・法則などを 体系的に理解し、知識を身に付けている。 21 反復試行の確率・条件付き確率 22 命題と論証・整数 23 平面ベクトル 0 0 0 冬季休業日(12/21~1/8) 季 24 空間ベクトル 25 ベクトル方程式 26 整数解をもつ方程式 27 素数 0 0 0 0 0 0 0 評 価 方 法 28 超精選問題演習 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「数学的な 見方や考え方」、「数学的な技能」、「知識・理解」 の4つの観点で評価します。 具体的には、おもに 0 数学Ⅲ総合演習 1 関数 2 極限 3 微分法 4 積分法 0 0 0 家庭学習 0 0 0 いからい 武士 (古田) しなり。 またいコース (おび) 「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点か = 0 0 0 0 0 0 0 0 学 2 評価した各学期の成績の平均とし、5段階法で も評定します。 0 0 0 0 0 0 0 0 備 考 3

愛媛県立宇和鳥南中等教育学校(6年生用)

教科	数学	科目	実用数学	学年		年	類型	7 - 7377 X 11 /K	単位数	3 単位	泣
----	----	----	------	----	--	---	----	------------------	-----	------	---